

展覧会のご案内

各位

平素は格別のご厚情を賜りありがとうございます。

古川美術館において、この度、分館爲三郎記念館では日展にて活躍する漆芸家・浅井啓介氏による展覧会を開催します。

是非とも貴媒体にてご紹介いただきたく、お願い申し上げます。

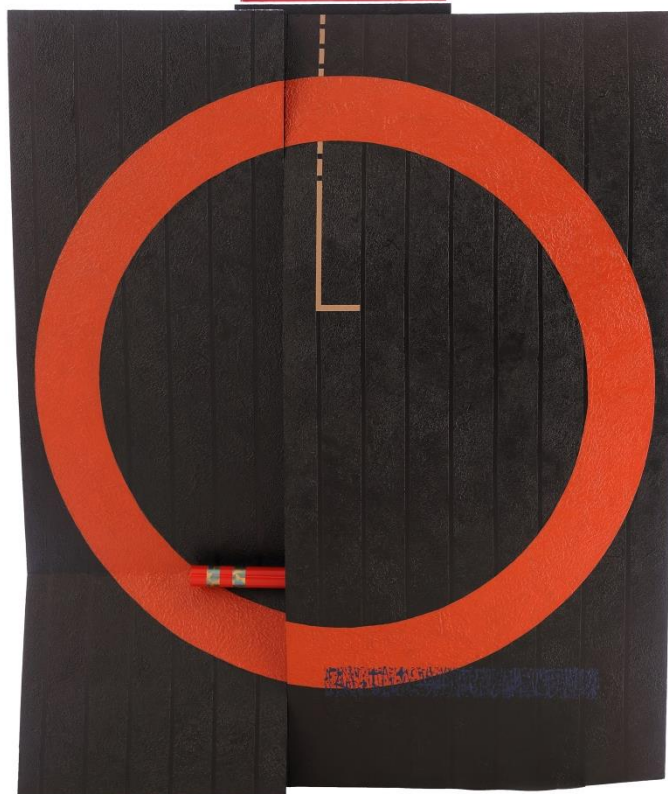
美しく光沢

現代に展開する漆の世界を紹介!!

爲三郎記念館特別企画

漆・浅井啓介展

2019年3月16日(土)～4月7日(日)



(図1)浅井啓介「円窓」作家蔵

会 場

開館時間

休 館 日

主 催

後 援

爲三郎記念館

10時～17時

(最終受付16時半)

月曜日

公益財団法人 古川知足会

愛知県教育委員会

名古屋市教育委員会

中日新聞社

スターキャット・ケーブルネットワーク(株)

蒔絵の技術を現代感覚にアレンジした作品群

「漆」・「漆器」は英語にすると「Japan」と呼ばれ、まさに日本を代表する素材です。これはかつて漆器が日本の代表的な輸出品だったころの名残ですが、温暖湿潤な気候の中で育った漆の木から採取される日本漆は、日本の気候と日本人の美意識、そして匠の技によって手を加えられてきました。古くは福井県鳥浜貝塚から縄文時代前期と考えられる朱塗りの櫛が見つかるなど、装身具や容器の塗料として利用されてきました。漆は防水性・耐熱性・耐久性を高める他にも、美しい深みのある色が生まれ、独特の質感、光沢とあたたかくやわらかみのある手ざわり、気品に満ちた風格を与えます。本展ではそうした漆の表現の可能性を追求する漆芸家・浅井啓介の漆の世界を紹介します。浅井は、代々続く漆芸家に生れ、日展で活躍する輪島塗の佐藤幸一の元で修業を重ね、現在は独立し家業を継ぐ傍ら、漆芸作家として日展を中心に活躍しています。浅井は漆を単なる伝統的な工芸品だけではなく、生活のあらゆるシーンを演出できる素材としてとらえ、漆による現代にあった空間づくりを実現しています。空間を一新する大型の壁面作品や独創性に富んだオブジェ、食卓を彩る漆は、大胆な意匠の中に緊張感のある丁寧な手仕事を見ることができます。漆芸を向き合い、現代のニーズにあった漆の展開を見せる浅井の今に生きる漆工芸をお楽しみください。

漆芸師・浅井啓介 (日展準会員)



小牧市にある代々続く漆芸一家の三代目として生まれ、18歳で日展で活躍する輪島塗・佐藤幸一（石川県輪島市）に師事。金粉や銀粉で漆の表面に絵模様をつける蒔絵を学ぶ。幼いころから、様々なものに興味を抱くが、蒔絵の世界に自らの表現の可能性を見出し、漆の世界へ。輪島での修業を終え、家業であった尾張漆器を継ぐため、祖父・嘉翁氏と父・源一郎氏に師事を仰ぐ。

漆芸を極めると共に、本格的に日本画を学び、絵画的要素と漆を融合した世界観を確立し、作家性の強い抽象作品を手掛ける。

「作品を一定のイメージにとらわれないよう」心がける浅井氏は漆という素材と向き合い、漆による新しい空間づくりに挑戦している。

テーマ1 —静謐さ—

空間を一新させる迫力のあるオブジェ。表面から見るとフラット画面に円が描かれているように見えるが、斜めのアングルから見ると凹凸があることがわかる。この凹凸の面に対し、正円を描くという集中力と丁寧な仕事を確認できる

—ここがポイント!!—

作品を様々なアングルから見ると、一見同じ色の漆だが光の反射によって異なった表情を見せるのも絵画にはない魅力。



テーマ2 —現代性—



蒔絵の技法を駆使しながら、現代的な作品を創造するのが浅井氏の魅力。金箔などのマットな質感と漆を併用することで漆の瑞々しい光沢をより際立たせている。

—ここがポイント!!—

箔などを使い、モダンな印象を作品に与えている。また、日本画の学習がずば抜けた色彩感覚からもうかがえる。

テーマ2 —斬新さ—

代々続く漆一家に生れ、伝統を守る傍ら、斬新な作品を手掛ける浅井氏。型にとどまった作品ばかりでは伝統芸術の先細りが懸念されるが、現代のニーズに合わせ、作品の形態を柔軟に発展させることこそ、漆を未来へ繋げる道なのかもしれない。先代も先々代もまた、その時々にあった漆芸を追求した。脈々と続く漆芸の展開に注目!!



テーマ3 —意外性—

漆と様々な素材を組み合わせ、漆の可能性を追求する浅井氏。「ガラスに漆??」という意外性の掛け合わせから生まれる斬新な作品に触れる。



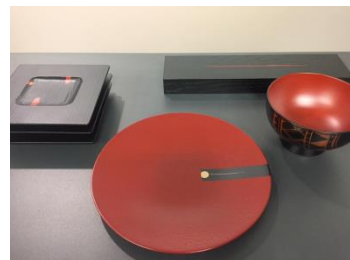
テーマ4 —触れる—

漆の魅力の一つにしっかりと手に吸い付くような触感がある。爲三郎記念館の喫茶コーナーでは、会期中、浅井氏の作品で喫茶メニューを提供。

目で見て、手に触れて・五感を使って作品を堪能できる。

—ここがポイント!!—

展示作品は触ってはいけないのが美術館のルール。しかし、爲三郎記念館では喫茶コーナーにて作品の質感を楽しむことができる。手馴染みのよい漆の暖かな質感を堪能!!



広報使用画像



※ご希望の方はご連絡ください

◆古川美術館

担当学芸員：林 奈美恵

電話：052-763-1991

mail : n_hayashi@furukawa-museum.or.jp

① 浅井啓介「円窓」作家蔵

関連企画

～アーティストトーク～

日時 | 3月24日(日) 14時～

参加費 | 無料(入館券必要)

会場 | 爲三郎記念館

～ギャラリートーク～

日時 | 4月3日(水) 15時～

参加費 | 無料(入館券必要)

会場 | 爲三郎記念館

ワークショップ～漆でリメイク～

要予約

大切な器が割れちゃったけど捨てられない！漆のお盆がほしい！！そんな貴方に朗報です。壊れたものを漆と金箔を使って復元する金継のワークショップと今あるものに漆を施しリメイクするワークショップを開催します。

日時 | 3月23日(土)・30日(土)・4月6日(日)各日14:00～16:00(予定)

定員 | 16名

参加費 | 金継コース:6,000円 漆コース 9,000円

※いずれも三回分。各回入館料別途必要

会場 | 古川美術館 3階会議室

申込み | 電話、フロントにて受付

本ワークショップにご参加の方限定で年間パスポートが特別価格でご入会いただけます。詳しくはお問い合わせください。

※お申込み時にどちらかのコースをお選び下さい。

※壊れたものがない方は別途有料にてご用意します。まずはご相談下さい。

※金継コースは3点まで。漆コースは本漆で塗りたいもの1点まで持ち込み可能。

展覧会名称

爲三郎記念館 特別企画

「漆・浅井啓介展」

会 場

爲三郎記念館（古川美術館 分館）

会 期

2019年3月16日（土）～4月7日（日）

午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

休館日

月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）

入館料

一般1,000円 高大生500円 小中生300円

主催

公益財団法人 古川知足会

後援

愛知県教育委員会 名古屋教育委員会、中日新聞社、スターキャット・ケーブルネットワーク(株)

協力

Beyond2020、あいちトリエンナーレ2019パートナーシップ事業

【お問い合わせ】

公益財団法人 古川知足会 古川美術館・分館 爲三郎記念館

電話 052-763-1991 FAX 052-763-1994(学芸課直通)

〒464-0066 名古屋市千種区池下町2丁目50番地

担当学芸員 林奈美恵 (n_hayashi@furukawa-museum.or.jp)

広報担当 学芸課 山内綾子 (a_yamauchi@furukawa-museum.or.jp)